

ミャンマー軍事政権の行方

工藤 年博（編）

2010 年 3 月

独立行政法人 日本貿易振興機構
アジア経済研究所

調査研究報告書

地域研究センター 2009 - - 04

「ミャンマー軍事政権の行方」研究会

はしがき

2010年3月8日、ちょうどこの文章を書いている時、ミャンマー軍政が選挙関連法を発表したと国営テレビが報じた。軍政は2010年内に予定される総選挙へ向けて、またひとつ歩を進めた。

1988年9月に国軍が武力で民主化運動を弾圧し、権力を掌握してから22年近くが経過した。1990年5月に軍政下で最初の総選挙が実施され、アウン・サン・スー・チー氏率いる国民民主連盟（NLD）が全議席の8割を超える議席を獲得したものの、結局軍政が選挙結果を無視して、権力の座に留まったことは周知の通りである。それから20年を経た2010年に、ミャンマー軍政は2度目の選挙を実施しようとしている。今回、軍政は周到な準備をしてきており、今日（3月8日）発表された選挙関連法も、その内容は確認できていないものの、周到な準備の一環のはずである。20年振りの総選挙の実施は、ほぼ確実にになった。

本書の執筆者の一人で1988年の民主化運動の渦中にヤンゴンに駐在していた伊野教授（北九州市立大学）は、当時、私の「ミャンマーでは何年後に議会が再び開かれるでしょうか」との問いに対し、「1999年」と答えたことを覚えている。並び数字を好むミャンマー人の嗜好を知っての回答であったが、もちろんその当時はそんなに時間がかかるとは誰も思っておらず、冗談として言われたのである。しかし、現実はこの冗談をさらに10年以上超えても、未だに実現していない。

こうした長い月日を振り返る時、その実施が現実となってきた2010年の総選挙は、たとえそれが軍政主導のものであっても、やはりミャンマー政治において大きな出来事に違いないと気付かされるのである。この総選挙はミャンマーに何をもたらすのか。あるいは、総選挙の実施に対する賛否がミャンマー国内及び国際社会で喧々譁々の議論をもたらす中、われわれはこの総選挙の性格をどのように理解し、位置づければ良いのだろうか。そもそも、ミャンマー軍政の統治下で政治、経済、社会、宗教、教育、少数民族（問題）などはどのような変化を見せてきたのだろうか。今回の総選挙をひとつのきっかけとしつつ、こうした一連の疑問が湧いてくる。

そこで、アジア経済研究所では2009年度に「ミャンマー軍事政権の行方」（主査：工藤年博）という研究会を発足させ、2010年総選挙をひとつの画期とみて、ミャンマー国軍、政治、そして社会がどこへ向かおうとしているのか、展望を試みることにした。この調査研究報告書はその中間報告である。しかし、われわれはまだ発表されたばかりの選挙関連法も読んでおらず、総選挙がいつ実施されるのか、そして誰が参加するのかさえ知らない。総選挙に関する具体的な分析は全く出来ていない。その意

味で、本書はまさに「中間」報告に留まっている。

にもかかわらず、このことはこの中間報告の意義を減ずるものではない、とわれわれは考える。なぜならば、われわれが分析の対象とするのは、今日に至るまでのミャンマー軍政とその時代の「来し方」を踏まえた上での、「行方」であるからである。この中間報告は少なくとも、ミャンマー軍政の「来し方」を理解する一助となるだろう。

また、本研究会では在ミャンマー日本大使館のご協力を得て、2008年憲法の日本語訳にも取り組んだ。本書のアペンディックスとして掲載したので参照いただきたい。本書やこうした資料が、2010年の総選挙の位置づけや、その後のミャンマーの展開を読み解く上で、読者の皆様のなにかしらの役に立てば幸いである。

工藤年博

2010年3月8日

目 次

はしがき

目次

執筆者紹介

序章 ミャンマーの新展開—2010 年選挙を控えて— 工藤年博

はじめに

- 1．新憲法の制定と特徴
- 2．国家防御法とスーチー氏の拘束
- 3．再燃する少数民族問題
- 4．国際社会の対応
- 5．本書の構成

おわりに

第 1 章 ミャンマーにおけるポスト 88 年の政軍関係と 2010 年選挙の行方

..... 中西嘉宏

はじめに

- 1．ミャンマー政軍関係研究
- 2．総選挙の前提条件

おわりに

第 2 章 新憲法の概要と特徴

..... 伊野憲治

はじめに

- 1．新憲法の概要
- 2．新憲法の特徴

第 3 章 ミャンマーの少数民族問題—紛争、停戦、平和再建— ゾウ・ウー

はじめに

- 1．ビルマにおける民族紛争の背景
- 2．停戦合意とその後
- 3．国民会議
- 4．新たな憲法：好機か難題か

- 5 . 2010 年の選挙における民族政治家と政党
- 6 . 国境警備隊：統合は失敗か？

第 4 章 ミャンマー現軍事政権下の宗教政策と宗教をめぐる諸状況

- 先行研究を中心に -

----- 土佐桂子

はじめに

- 1 . 宗教研究の動向
- 2 . 宗教全般に関わる状況と政策
- 3 . 仏教・サンガ政策
- 4 . 現政権におけるサンガ政策
- 5 . 政府中枢による宗教実践とメディア

おわりに

第 5 章 ミャンマー軍事政権の教育政策

----- 増田知子

はじめに

- 1 . 教育の今日
- 2 . 1988 年以降の教育政策
- 3 . 公教育のほころび
- 4 . 軍事政権による教育政策のゆくえ

補足資料

ミャンマー連邦共和国憲法（日本語訳）

執筆者紹介

序 章

工藤年博 アジア経済研究所 地域研究センター

第1章

中西嘉宏 アジア経済研究所 地域研究センター

第2章

伊野憲治 北九州市立大学 教授

第3章

ゾウ・ウー チェンマイ大学 客員講師

第4章

土佐桂子 東京外国語大学 教授

第5章

増田知子 国際協力機構（JICA）専門家（教育）